

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成27年5月号

編 集
発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15
一般社団法人 日本病院会 通信教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

臨床医学を講義して常に考えていること

佐藤 浩樹

北海道情報大学 先端医療・健康情報教育センター長

毎年、スクーリング講師として臨床医学(血液、内分泌、代謝疾患)を担当しております。例年は北海道会場担当のみなのですが、先日大阪会場にて講義を行ってまいりました。会場には400人を超える受講生がおられ、診療情報管理士の需要および期待の高さを再認識した次第です。通常、私は北海道情報大学にて診療情報管理士を育てるコース責任者として勤務しておりますが、臨床医学は難しく苦手という学生が多く、毎年試行錯誤で講義を組み立てております。それはそうです。高校時代に生物を勉強したこともない学生にいきなり疾病の理解を求めるのは酷というものです。でもやらなければ資格試験に合格しないし将来は開けない。

臨床医学を理解することは疾病の理解をすることと同義であります。疾病とは体内で起こっている正常なシステムが破綻し、体内で起こった個々の異常システムを区別するための名前にすぎません。したがって、体内で起こっている正常なシステムをまずはしっかり理解し、どの点が異常になったのかを理解し説明できることが最も重要なポイントと考えています。異常な点が理解できれば身体症状や検査所見は想像がつかます。その後、疾病名を覚えることが良いと思います。そうしますと覚えることは格段に減りますし疾病どうしのつながりも出てきます。たとえばビタミンB12が体内に欠乏するとどうなるでしょうか。血液疾患と神経疾患を起こしますね。この異常が理解できていれば一度に2つの疾病を記憶することができ、さらに疾病同士のつながりが出てきます。体内で起こっている正常システムを理解せずにやみくもに疾病名を暗記し、紐づけの如く症状や検査所見を暗記する勉強方法を行っている人をよく見かけます。資格合格においては決して悪い方法とは思いませんが、将来的に診療情報管理士として幅広く活躍するためには勉強方法としてはどうかと思います。

最後になりましたが、昨今の包括的医療の現場において診療記録をはじめとした医療情報の電子化やDPCなどの流れが加速し扱わなければならない医療情報はますます膨大となっております。この医療情報を管理できる新たな担い手として診療情報管理士は極めて重要な職種であると考えております。これまでの医療事務とは異なった専門職としての可能性を感じつつ、今後も工夫、試行錯誤を加えながら教育を行っていきたく思っております。

